



2019 FUN&RUN! 2-WHEELS [2]

IN SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE

ROAD STAR WARS // ROAD STAR // NEO STANDARD

5 Sun. May

イベント全体概要報告

■開催概要

- 大会名称 : 2019 FUN & RUN! 2-Wheels [2] in SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE (MFJ承認競技会)
- 開催場所 : 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース/東コース (2.243km)
三重県鈴鹿市稲生町7992
- 開催日 : 2019年5月5日(日・祝)
- 天候 : 快晴/路面:ドライ
- 開催クラス : ★総参加台数/132台
ROAD STAR CHALLENGER I...1台
ROAD STAR I...9台
ROAD STAR EXPERT I...7台
ROAD STAR II...4台
ROAD STAR EXPERT II...8台
ROAD STAR WARS I...23台
ROAD STAR WARS II...19台
NEO STANDARD<Ninja250R>...18台
NEO STANDARD<YZF-R25>...16台
NEO STANDARD<CBR250R>...13台
NEO STANDARD<VTR250>...4台
NEO STANDARD<G310R>...10台

■次回開催予定

- 大会名称 : 2019 FUN & RUN! 2-Wheels [3] in SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE
- 開催場所 : 鈴鹿サーキット・国際レーシングコース/東コース (2.243km)
- 開催日 : 2019年6月2日 (日)
- 開催クラス : ST250、CLASSIC、FUN & RUN Mix Big/EXPERT、FUN & RUN Mix Small/EXPERT、NEO STANDARD (Ninja250R/YZF-R25/CBR250R/VTR250/G310R)

★レースリザルトは、インターネットでご覧いただけます。

リザルトページ https://www.suzukacircuit.jp/result_s/

★レース写真は、バトルファクトリー様のHPでご購入いただけます。

バトルファクトリーHP <http://www.battle.co.jp/>





2019 FUN&RUN! 2-WHEELS 2

IN SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE

ROAD STAR WARS // ROAD STAR // NEO STANDARD

5 Sun. May

開催クラス紹介

【NEO STANDARD】

現在、各社から発売されている、手頃な車両価格で最も人気の高い4ストローク250ccマシンによるエントリークラス。カワサキNinja250R、ホンダVTR250、ホンダCBR250R、YZF-R25の4車種に加え、さらに今年からBMW G310Rが使用できるようになりました。スプリントレースでありながら、途中ライダー交代またはピットインが必要となります。また、チームエントリーでシリーズ戦として開催し、車両別となったカテゴリーでのチャンピオンが決定するのも人気の理由。ライダーを1大会2名まで登録することができ、チームとしても楽しめる、経済的なクラスとなっています。

●参加車両例 カワサキNinja250R ホンダVTR250 ホンダCBR250R ヤマハYZF-R25 BMW G310R

【ROAD STAR (CHALLENGER/EXPERT) I/II】

※CHALLENGERは「I」のみ

ROAD STAR WARS同様、一般公道走行が認められるナンバー付車両による競技です。ROAD STAR WARSとは違い、こちらは全て「タイムアタック形式」の競技となります。また、ライダーのスキルにより、入門者にはCHALLENGERクラスから、上級者にはEXPERTクラスまで幅広く参加できるクラスとなっています。

●参加車両例 ホンダCBR1000RR ヤマハ YZF-R1 トライアンフ デイトナ675 ビューエル XB9S スズキ TL1000S

【ROAD STAR WARS I/II】

一般公道走行が認められている、いわゆる「ナンバー付」車両による、レース形式競技がこのROAD STAR WARSです。「I」と「II」は車両の大きさの違いであり、2ストローク251cc/4ストローク401cc以上の車両がROAD STAR WARS I、2ストローク86cc~250cc/4ストローク100cc~750ccまでの車両がROAD STAR WARS IIとなります。現在、FUN&RUNで最も人気のあるクラスの内の一つです。

●参加車両例 ホンダCBR1000RR ヤマハ YZF-R6 ヤマハ FZR400 スズキ RGV250 γ カワサキ ZZR1100 等



ゴールデンウィーク後半に開催された令和初のイベント。 “ファンラン”第2回大会は好天のもと大いに盛り上がった。

「みんなで走ってバイクをもっと楽しもう!!」をコンセプトに1999年より開催されている「FUN & RUN! 2-Wheels(通称“ファンラン”)」。今シーズンの第2回大会では「ROAD STAR」、「ROAD STAR WARS」、「NEO STANDARD」という3つのカテゴリーの競技が開催された。

“ファンラン”開催当初から注目を集める「ROAD STAR」と「ROAD STAR WARS」はどちらもナンバー付き車両による競技で、「ROAD STAR」はタイムアタック競技、「ROAD STAR WARS」はレース競技だ。今回も「ROAD STAR」の各カテゴリーでは思い通りのペースで鈴鹿サーキットを攻略する姿が見られた。また、「ROAD STAR WARS」でも白熱したバトルが披露された。さらに、ドウカティのV4マシン「Panigale V4」が「ROAD STAR I」に1台が、「ROAD STAR WARS II」に2台が参戦。最新車両の走りを見られたりそのサウンドを聞けるのも“ファンラン”の魅力のひとつと言えるだろう。

続いて「NEO STANDARD」は昨今の“ファンラン”で人気となっているカテゴリー。2010年に初めてレースが行われたこのカテゴリーは昨シーズンより「BMW G310R」クラスが新設され、さらに盛り上がりを見せている。参戦マシンが比較的リーズナブルな価格帯で販売されており、参戦しやすいことに加え、スプリントレースでありながら途中でのライダー交代またはピットインが義務付けられており、セミ耐久のような楽しみ方も可能。また、ポイントがライダーではなくチームに付くため、大人数で楽しめるのも特徴のひとつだ。

このカテゴリーには合計61台が参加。<Ninja250R>、<YZF-R25>、<CBR250R/VTR250/G310R>にダブルエントリーあるいはトリプルエントリーするチームもあった。

今年のゴールデンウィークでは平成から令和に時代が変わった。そんなゴールデンウィークの後半、5月5日(日)のこの日にこの第2回大会が開催された。参戦者や応援者はもちろん、響き渡るレーシングサウンドを聞きつけた遊園地への来場者もこのイベントを楽しんでいた姿が印象的だった。

次回第3戦では4ストローク145cc以上250cc以下の公道用一般車両をベースにしたストックバイクによる「ST250」、シングルやツイン、ビッグネイキッド、レーサーレプリカ、市販レーサーなど様々なバイクがバトルを展開する「FUN & RUN Mix Big」と「FUN & RUN Mix Small」の両カテゴリー、そして「NEO STANDARD」に加え、1974年までに生産された往年の名車による「CLASSIC」のレースが開催される。年に1度の古いバイクたちによるバトルに注目が集まる。



ROAD STAR I / ROAD STAR II 決勝スタート前



2019 FUN&RUN! 2-WHEELS 2

IN SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE

ROAD STAR WARS // ROAD STAR // NEO STANDARD

5 Sun. May

レースレポート-1 【タイムアタック形式競技】

ROAD STAR I / ROAD STAR CHALLENGER I / ROAD STAR EXPERT I

まずROAD STAR Iの3カテゴリーからタイムアタックがスタート。内田洋一、藤田翔斗、中尾宏司、山崎芳雄、SULLCANY VICTORらが1分を切る好タイムをマークする。内田と藤田は周回ごとに自己ベストを更新。内田は55秒959をマークするとピットへ。藤田も55秒985をマークしてピットに入る。結局、内田の55秒959が総合トップタイムとなった。



ROAD STAR I 総合/カテゴリー別表彰式 (優勝:藤田翔斗、2位:高橋厚裕、3位:前原匡志)
(C1優勝:藤田翔斗、C2優勝:亀田啓明、C3優勝:前原匡志)



ROAD STAR EXPERT I 総合/カテゴリー別表彰式 (優勝:内田洋一、2位:中尾宏司、3位:
SULLCANY VICTOR) (C1優勝:内田洋一、C2優勝:加藤信治、C3優勝:中尾宏司)



ROAD STAR II 総合/カテゴリー別表彰式 (優勝:川島隆昌、2位:幾田晃弘、3位:徳田靖)
(C5優勝:徳田靖、C6優勝:幾田晃弘、C7優勝:川島隆昌)



2019 FUN&RUN! 2-WHEELS 2

IN SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE

ROAD STAR WARS // ROAD STAR // NEO STANDARD

5 Sun. May

レースレポート-2【タイムアタック形式競技】

ROAD STAR II / ROAD STAR EXPERT II

ROAD STAR I に続いて行われたROAD STAR IIの2カテゴリーでは畔柳章、加藤久幸、坂之下孝秀、川口篤史らが好走を披露。その中で川口が唯一1分を切る58秒242をマークすると、それが総合トップタイムとなった。



ROAD STAR II 総合／カテゴリー別表彰式（優勝：川島隆昌、2位：幾田晃弘、3位：徳田靖）
（C5優勝：徳田靖、C6優勝：幾田晃弘、C7優勝：川島隆昌）



ROAD STAR EXPERT II 総合／カテゴリー別表彰式（優勝：川口篤史、2位：坂之下孝秀、3位：立間文章）
（C4優勝：立間文章、C5優勝：川口篤史、C6優勝：赤澤宏匡、C7優勝：加藤久幸）

ROAD STAR WARS I

ポールポジションスタートの香川純が良いクラッチミートを披露してホールショットをゲット。3番グリッドスタートの中川祐司がそれに続く。香川、中川、2番グリッドスタートの内田洋一のオーダーでオープニングラップを帰ってくると、まもなく香川が2位以降を若干引き離すことに成功する。その後方で中川と内田がテールtoノーズのバトルを展開。5番グリッドスタートの葛岡勝徳が単独4位に。4番グリッドスタートの藤田翔斗も単独5位となるが、終盤になると再び集団が接近し、中川、内田、葛岡、藤田がテールtoノーズの状態に。香川がポールtoウィン。葛岡、内田、中川を立て続けにパスした藤田が2位チェッカー。中川が3位入賞を決めた。



ROAD STAR WARS I 総合／カテゴリー別表彰式 (優勝:香川純、2位:藤田翔斗、3位:中川祐司)
(C1優勝:香川純、C2優勝:片岡譲、C3優勝:吉村拓也)

ROAD STAR WARS II

公式予選でトップタイムをマークした大竹洋司がその予選の終盤で転倒。大竹は決勝レースを欠場することとなる。一番有利なポジションからスタートすることとなった松田真一がクラッチミートでミス。2列目5番グリッドスタートの可部谷雄矢がホールショットを奪う。その可部谷がトップのままオープニングラップを終了。3列目7番グリッドスタートの坂之下孝秀がそれに続く。徐々に可部谷が単独トップに。その後方で坂之下と4番グリッドスタートの竹廣草生がテールtoノーズのバトルを展開する。竹廣が坂之下をパスすると、すぐに竹廣、坂之下は単独2位、単独3位に。結局、可部谷がトップチェッカーを受けた。それに竹廣、坂之下と続いた。



ROAD STAR WARS II 総合／カテゴリー別表彰式 (優勝:可部谷雄矢、2位:竹廣草生、3位:坂之下孝秀)
(C4優勝:立間文章、C5優勝:可部谷雄矢、C6優勝:島谷幸治、C7優勝:長谷川広幸)

NEO STANDARD<Ninja250R>

ポールポジションスタートの西良英之がホールショットをゲット。前回のレースでクラス優勝を飾ったため、最後尾からスタートすることとなった山本晃久はスタートで集団の中盤あたりまで順位を回復する。西良、5番グリッドスタートの廣瀬直人、3番グリッドスタートの平山美奈／福山京太組の福山のオーダーでオープニングラップを終了。周回ごとに確実に順位を上げ続ける山本が4周目の1コーナー進入でトップに立つ。山本、西良、廣瀬、福山、4番グリッドスタートの西村博貴の5台がテールtoノーズの状態でトップ争いを展開。そのトップグループの中では11周目終了時点で福山がピットに入り、平山にライダーチェンジする。19周目終了時点で山本と西良が、22周目終了時点で西村がそれぞれピットに入る。上位陣が全てピットインを終えた後は山本がトップに。結局、その山本が開幕戦に続いて2連勝を果たす結果となった。



NEO STANDARD<Ninja250R>仮表彰式
(優勝:山本晃久、2位:廣瀬直人、3位:西村博貴)

NEO STANDARD<YZF-R25>

鈴木克正／福井宏至組がポールポジションからスタート。2番グリッドスタートの杉島潤が福井の横からスルスルと抜け出してホールショットを奪う。2コーナーで福井が杉島をパス。福井、杉島のオーダーでオープニングラップを帰ってくると、2周目の1コーナーでは杉島がトップに返り咲く。前回のレースでクラス優勝を飾ったため、最後尾からスタートすることとなった松浦光利は2周目終了時点で4位までジャンプアップ。福井、杉島、9番グリッドスタートの鳥居典生、松浦の4台がトップグループを形成する。その後も周回ごとに順位を変えるトップグループの中で真っ先にピットに入ったのは福井だった。福井は15周目終了時点でピットインすると鈴木にライダーチェンジ。21周目終了時点で松浦、鳥居、杉島が同時にピットイン。鳥居がトップでコースに復帰する。トップチェッカーを受けたのはその鳥居。それに松浦、杉島と続いた。



NEO STANDARD<YZF-R25>仮表彰式
(優勝:鳥居典生、2位:松浦光利、3位:杉島潤)

NEO STANDARD <CBR250R/VTR250/G310R>

ポールポジションスタートの梶野宰／玉田敬済組の玉田がスタートで集団に飲み込まれる。ホールショットを奪ったのは佐々木龍人。しかしオープニングラップをトップで帰ってきたのは大倉拓夢／福井宏至組の大倉だった。それに佐々木、鈴木克正／中村和悦組の中村と続く。佐々木と大倉をパスした中村は後続を引き離すことに成功。その後方で佐々木、玉田、大倉、原田悠平、松浦光利／早野巖組の松浦がバトルを展開する。前回のレースでクラス優勝を飾ったため、最後尾からスタートすることとなった松浦が中村に接近するとこれをパスしてトップで7周目を終了。10周を過ぎるとトップグループがばらけはじめる。ピットインを終えた後は鈴木、佐々木、福井のオーダーに。鈴木がトップチェッカーを受け、鈴木／中村組がCBRクラスのウィナーに。総合2位の佐々木がG310Rを、総合8位の樋口圭祐がVTRクラスをそれぞれ制した。



NEO STANDARD<CBR250R>表彰式
(優勝:鈴木克正／中村和悦、2位:大倉拓夢／福井宏至、3位:原田悠平)



NEO STANDARD<VTR250>表彰式
(優勝:樋口圭祐、2位:上平真、3位:高橋潤／浅沼鉄也)



NEO STANDARD<G310R>表彰式
(優勝:佐々木龍人、2位:松浦光利／早野巖、3位:谷島友和)